

日南田静真研究（補遺）

富岡 庄一*¹・秋葉 節夫*²

*¹ 広島大学大学院社会科学部

*² 広島大学大学院総合科学研究科

Study of Shizuma Hinata (Supplement)

Shoichi Tomioka*¹ and Setsuo Akiba*²

*¹ Graduate School of Social Sciences

*² Graduate School of Integrated Art and Sciences

補遺

富岡庄一・秋葉節夫「日南田静真研究」（『環境科学研究』第1巻）所収の「故日南田静真名誉教授著作目録」には、以下の諸著作が脱落していたので、補っておく。なお、「著作目録」の作成、及び脱落の指摘にあたっては、釧路公立大学の松井憲明教授のお手を煩わせた。

（富岡庄一）

「農業、10 ロシア」、「ミール」、——大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』、岩波書店、1965年。

〔書評〕田中真晴『ロシア経済思想史の研究』、——『日本読書新聞』1967年9月4日。

「1905年革命と労農同盟」上・下、——『日本読書新聞』1970年3月23日・30日。

〔書評〕荒又重雄『ロシア労働政策史』、——『週刊読書人』1971年5月31日。

『「アンナ・カレーニナ」の時代としてのロシアの『原蓄』期』上・下、——（トルストイ全集）『月報』1-2、1972年5-7月。

「スクヴォルツォフ・スチェパーノフとレーニン」、——スラブ研究施設研究員会議報告（於北海道大学、1972年7月10日）。

「ロシアにおける帝国主義と『二つの道』——スクヴォルツォフ＝スチェパーノフの理論に関連して——」、——土地制度史学会大会報告（於岡山大学、1972年10月28日）

（福富正実の論文「B. II. ザスーリッチの手紙への回答およびその下書き」に対する）「コメント」、——『マルクス・コメンタール V』、現代の理論社、1973年。

『「共同体とマルクス」をめぐって』、——『UP』第2巻第9号、1973年。

「農政史家 故井上晴丸——追憶をかねて——」、——経済史研究会報告（於北海道大学、1973年10月20日）。

「19世紀末のミールに関する文献上の一問題——「社会的再生の拠点」の論理は何か——」、——スラブ研究会報告（於北海道大学、1974年2月）。

“Characteristics of Russian Capitalism: Considered from a Special Case Study of a Peasant Movement in Revolution 1905”, —— Report made at the Second Colloquium of Japanese and Soviet Historians (Moscow, November 19, 1975).

「革命前ロシア資本主義の性格および農業構造についての研究状況——日ソ歴史学シンポジウムに出席して——」、——農業総合研究所研究会報告、1976年4月1日。

(歴史学会シンポジウムにおける倉持俊一の報告「ロシアの農民共同体について」に対する)「コメント」、——『史潮』新2号、1977年。

『私の研究』前史——先生たち——」、——広島大学総合科学部広報委員会『メタセコイア』第5号(1977年)。

〔書評〕和田春樹『農民革命の世界 エセーニンとマフノ』、——『朝日新聞』(朝刊)1978年11月23日。

「レーニン教条主義の今日」、——『(人類の知的遺産)月報』第27号、1980年。

“Мысли об аграрном строе дореволюционной России”, ——《Россия XX век》, Том 1, № 2 (1996).

「無題」〔近況、わが途、その他〕、——〔塚田益男ほか編〕『26農経会』、1999年。